

# 「創立30周年記念医学会の開催にあたって」

東広島地区医師会会長  
佐々木 正博

当地区医師会の歴史は、明治21年4月、郡・区単位の医師組織（賀茂郡医会）が結成された時に始まりました。その後幾多の変遷を経て、昭和31年4月に西条町を中心とした地区の賀茂郡西部医師会と、河内・豊栄地区の賀茂郡東部医師会に分離しました。賀茂郡西部医師会は昭和49年10月から現在の社団法人東広島地区医師会となり、本年度創立30周年を迎えることになりました。30年前の東広島市の人口は64,000人でしたが、平成16年5月現在、126,000人と急速に増加し、東広島地区医師会も会員数280名と大世帯になりました。

私ども東広島地区医師会会員は地域医療、健康づくり、福祉の向上を目指して平素から会務を遂行してまいりました。しかし、急速な人口増加、高齢化社会、高度先進医療への対応、在宅医療へのシフト、介護保険制度導入など、21世紀に入り医療を取り巻く環境はめまぐるしく変化してまいりました。医師会のみならず、コメディカル、消防署、東広島市福祉部、保健所などの多職種の参加・連携のもと、包括医療を積極的に推進してゆかなければならない時代となりました。その様な時代の変遷に鑑み、この度生涯教育の一環として研究発表、討論を通して、地域住民のニーズに答えてゆくため、医学会を催すことにいたしました。

基調講演として「上手にお酒を飲む法」と題し、青梅市新町クリニック健康管理センター所長 高木 敏先生に御講演をいただき、さらに関係各機関から10題のポスター展示と8題の一般演題のご発表をいただくことになっております。

本日の医学会を通じて医学・医療の研鑽と、保険・医療・福祉の連携、病診連携を一段と深めていただき、実り多き会となりますよう祈念いたしております。

# 東広島地区医師会創立30周年記念医学会プログラム

12:00～ 受付

ポスター展示 (15:40まで) 会場: ホワイエ

- ポ-1 モデル事業「東広島における小児救急在宅当番医制」(中間報告)の現状と課題  
東広島地区医師会 救急担当  
○杉原雄三、藤井 徹、村下純二、佐々木正博
- ポ-2 賀茂広域行政組合消防本部の救急活動状況について  
賀茂広域行政組合消防本部警防課  
○古田安伸
- ポ-3 在宅服薬管理—PEG及び癌末期ターミナルの事例について今後の課題—  
東広島薬剤師会 セルム薬局  
○松森隆志、合原憲太
- ポ-4 歯科パネルテーマ(咀嚼、審美)  
賀茂・東広島歯科医師会  
○富田洋道、藤井春男、山縣隆宏、佐藤美穂子、野々山大介
- ポ-5 転倒予防教室の取り組み  
東広島市保健センター  
○福重 藍
- ポ-6 「お薬手帳」の利用について当薬局における患者様の意識調査  
東広島薬剤師会 よつば薬局  
○川崎一仁、樋口真由美
- ポ-7 「東広島市介護保険事業報告」—介護の視点から見えてきた疾病状況  
東広島市福祉部高齢介護課
- ポ-8 介護予防と自立支援に向けて在宅でのパワーリハビリの取り組み  
地域ケア総合委員会ワーキンググループ・賀茂台地訪問看護ステーションパワーリハビリグループ  
○水本幸恵、吉川由美子、古川なるみ、秀島栄子、末国春香、真鍋紀子、藤沢五月、  
小野由三子、原田雅美、湯浅時栄、岡部正道、寺口智子
- ポ-9 東広島地区医師会臨床検査センターの業務  
東広島地区医師会臨床検査センター  
○三戸敏恵、兼山加代子、森長比登美、平崎なおみ
- ポ-10 「痴呆に関する基本情報」の用紙作成と活用の取り組みについて  
賀茂台地訪問看護ステーション痴呆ケアグループ  
○宮武洋子、川本雪江、佐藤彩誉子、大石淑子、大多和頼子、小早川美智子、  
下潮さとみ、宮本紀美代、竹田明美、沖土居智子、湯浅時栄

13:00～ 会長挨拶 佐々木正博 会長 会場：大ホール

記念事業発表 本城典彦 理事

一般演題 内科系 座長 藤原義剛 副会長

コ-1 「東広島市における肝炎ウイルス検診の現状と問題点」

東広島肝疾患懇話会

○藤原雅親、池本吉博、三浦敏夫、川口 稔、川本広夫、楠部 滋、金基哲

コ-2 「当院でのmultidetector-rowCTによる、HCV抗体陽性者及びHBs抗原陽性者のfollow-upの有用性」

井野口病院

○松本明子、宗盛 真、坂井賢哉、山形東吾、平田雄三、児玉真哉、山中啓司、井野口千秋

コ-3 「耳鼻科学校検診の開始3年間の成果と課題」

東広島地区耳鼻咽喉科医会

○竹内 實、渡部雄二、田代 亨、藤原裕美

コ-4 「東広島地区における痴呆ケアネットワークの現状と展望」

東広島地区医師会 地域ケア総合委員会

○楠部 滋、藤原義剛、佐々木正博、稲葉 裕、勝山春作、新開洋一、藤本洋治、古玉 健、山崎正数

一般演題 外科系 座長 児玉安紀 理事

コ-5 「当科で行っている日帰り・短期入院手術」

独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター 耳鼻咽喉科

○宮脇浩紀、高本宗男

コ-6 「当院におけるマンモトーム（乳房生検装置）を用いた診断治療について」

独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター 外科

○貞本誠治、高橋忠照、豊田和広、池田昌博、中谷玉樹、木村まり、高倉有二、栗本典昭、沖政盛治

コ-7 「十二指腸潰瘍穿孔に対する腹腔鏡下穿孔部閉鎖、大網被覆術の3例」

独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター 外科

○高橋忠照、貞本誠治、豊田和広、池田昌博、中谷玉樹、木村まり、高倉有二、栗本典昭、沖政盛治

コ-8 「人工関節・最近の進歩」

広島県立身体障害者リハビリテーションセンター

○黒瀬靖郎、宮下裕行、藤井二郎、岡 伸一

14:40～ 基調講演 座長 佐々木正博 会長

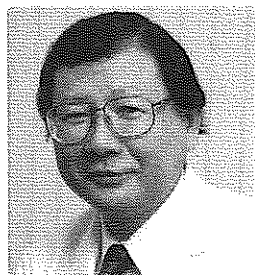
「上手にお酒を飲む法」

講師 青梅市 新町クリニック・健康管理センター 所長

# 基 調 講 演

## 演題名「上手にお酒を飲む法」

講師 青梅市 新町クリニック・健康管理センター 所長



高木 敏 先生

慶応義塾大学医学部内科非常勤講師

日本アルコール・薬物医学会監事

労働衛生コンサルタント、医学博士

略歴：

1971年 慶応義塾大学医学部卒業

1975年 慶応義塾大学消化器内科助手

1980年 国立療養所久里浜病院内科医長

1987年 国立療養所久里浜病院副院長

1995年 新町クリニック・健康管理センター所長

### 講演要旨：

飲酒問題は個人の健康障害だけではなく、労働意欲の減退、欠勤、事故など企業も被害をうけている。

飲酒問題に関心をもち、適正飲酒の指導とアルコール依存症の早期介入に取り組みれば個人にも社会にも大きなメリットになる。

#### 1：職場の飲酒者

飲酒量は現業より事務系の方が多い。問題飲酒者は精神的に不健康な人で、職場や家庭の満足度が低く、頑張り屋で仕事中毒のタイプが多い。

#### 2：アルコールによる臓器障害

障害される部位に個人差がある点、禁酒すると速やかに改善する点が特徴である。

アルコール依存症では肝障害が80%にみられる。女性では男性より少ない量でしかも短時間で肝硬変が発生する。脳のCT検査をすると脳萎縮は前頭葉を中心にみられ脳室も拡大するが断酒によって半数は改善する。

アルコール依存症の退院5年以内の死亡率は21%（平均年齢51歳）で死因の40%は突然死である。

#### 3：職場や臨床の場での取り組み方

##### (1) 職場の飲酒教育

飲酒で発赤しない人はアルコール依存症になりやすく、発赤のある人は悪酔いしやすい。

未成年者の飲酒は耐性が早く形成されアルコール依存症になりやすい。妊娠中の飲酒は胎児性アルコール症候群を起こす。

##### (2) 適正飲酒の試み

問題飲酒者では頑張り屋が多いので、「あなたは仕事中毒だから飲酒量が増えるのです」と説明すると禁酒への導入がしやすい。ゆとりのある生活、食生活の改善、適度の運動、ストレス解消法を指導する。

##### (3) アルコール依存症の早期発見と早期介入

1) プレーキの効かない飲み方がある、2) 身体症状がある、3) 会社や社会で問題がある、この三つがそろえばアルコール依存症の可能性はある。

アルコール専門機関と連携し、アルコール教育や回復者とのミーティング、家族教室などの治療プログラムを通じて、“しらふの生活”を送る知恵を教えて貰う事が有用である。

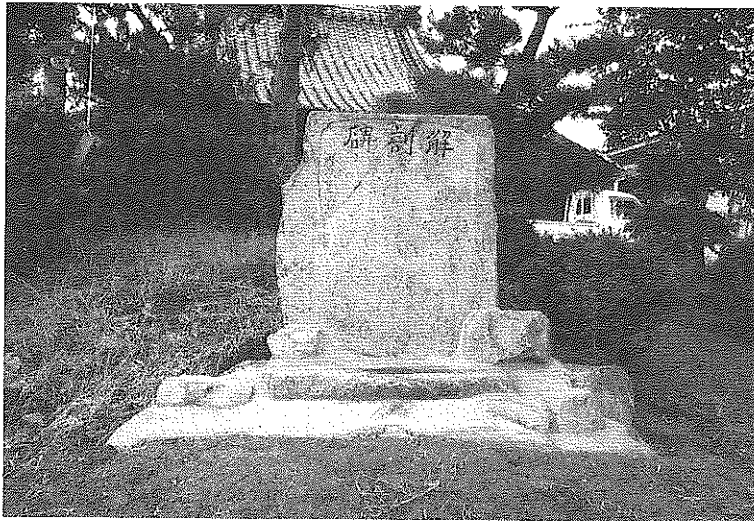
この講演によって少しでも飲酒問題に関心をもっていただければ幸いである。

# 東広島地区医師会創立30周年記念事業

## <高屋の解剖碑整備>

建立年 明治22年（1889年）3月1日  
 建立者 賀茂医会第三支部会  
 寸法 高さ100cm 幅86cm 厚さ18cm

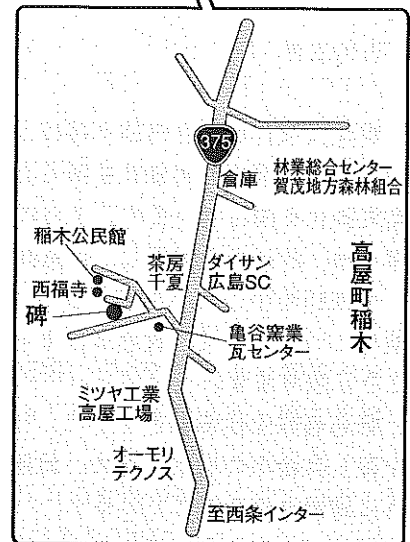
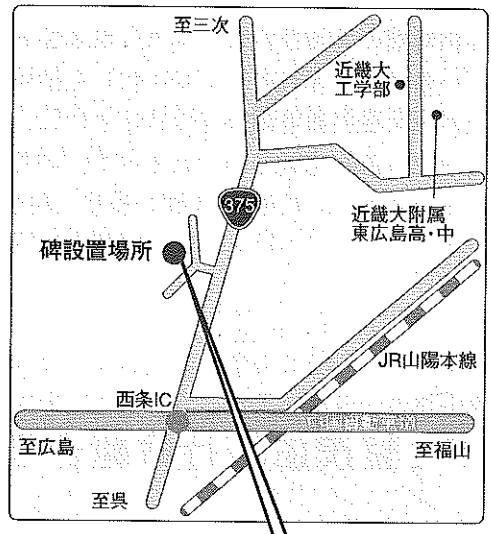
所在地 東広島市高屋町稲木2400番地  
 （2003年7月吉日、稲木1521番地より移設）



解剖碑

この解剖碑は、遺体を医学の進歩のために捧げた中町逸平氏の崇高な精神を讃え記念して賀茂医会（東広島地区医師会の前身）によって建てられたものである。

解剖は、明治21年（1888年）12月6日、中町逸平氏の遺言により高屋町稲木 西岡清三郎氏宅で、かかりつけの医師 黒川三益（福富町久芳）により行われ、賀茂郡内の医師三十数名が立ち会った。解剖碑の碑文は、八本松の医師 頼 晋造の書である。



## ポ-1 モデル事業「東広島における小児救急在宅当番医制」(中間報告)の現状と課題

東広島地区医師会 救急担当

○杉原雄三、藤井 徹、村下純二、佐々木正博

今日的課題として、小児救急医療体制の整備が全国的に謳われている。当東広島地区も従来のかかりつけ医では支えられない県下でも有数の人口急増地区の一つである。比較的若年層の子育て不安を有する世代の転入者が多く、小児医療の需要をさらに増している。しかし一方で、共働き、就労時間の延長など生活形態、生活時間の多様性から、本当に緊急性を有する小児救急の必要性にも増して、緊急性を要しない時間外受診(いわゆる小児科のコンビニ化)も指摘されるところである。平成13年9月より時代の要請に応じ、当時の佐々木会長、藤井副会長の呼びかけに、快く応じた当地区医師会員(ボランティア)による東広島地区独自の小児救急在宅輪番制が始まった。のちに初期小児救急医療体制の強化として『県のモデル事業』として取り上げられた。この約3年間の現状(利用状況)および今後の課題を利用者のアンケートを含め報告する。

## ポ-2 賀茂広域行政組合消防本部の救急活動状況について

賀茂広域行政組合消防本部警防課

○古田安伸

賀茂広域行政組合消防本部は、日夜住民の生命財産を守るため、住民の防災意識の高揚や各種事業所に対する予防指導の充実強化を図るとともに、消防署などの活動拠点の整備や消防装備の整備など、警防体制の充実強化を図っています。さらに、傷病者の救命効果をより一層向上させるため高規格救急車6台と普通救急車4台、計10台を配備し、救急救命士については、現在27名が活躍し救急業務体制の充実を図っています。

平成15年中の救急出動件数並びに救急搬送人員は、出動5,252件、搬送5,265人であり年々増加の一途を辿っています。又、救急車による出動件数は一日平均約14件で、管内住民の約32人に1人が救急搬送されたこととなります。

緊急通報受信体制としては、当消防本部の指令員は救急課程修了者を配置し、口頭による応急手当の実施を促し救命率の向上に努め、地域住民の方々には、各種救命講習会を通じ、応急手当を身につけて頂けるように講習会を開催しています。

最後に大切な命を救うためには、落ち着いてはっきりと119番通報を行い、救急車が現場に到着するまでの間に、現場に居合わせた方(バイスタンダー)が勇気をもって心肺蘇生法等の応急手当を施し、救急救命士等による迅速的確な応急処置・速やかに医療機関へ搬送後、医師による早期の医療処置を実施するまでの、全ての連携が重要になります。

いわゆる「救命の連鎖」が必要になるため、一般市民、消防機関、医療機関が相互に協力して初めて助かる命を救うことができるのです。

## ポ・3 在宅服薬管理 —PEG及び癌末期ターミナルの事例について今後の課題—

東広島薬剤師会 セルム薬局

○松森隆志、合原憲太

### 【目的】

医師を中心とした在宅医療の中で薬物治療をより効果的に行うために、薬剤師も在宅で患者さんの居宅に赴き、服薬指導や薬剤管理を通じて医療ネットワークの一員として、在宅での療養をサポートすることを目的とします。

### 【現況】

現況としては、在宅薬剤管理はまだまだ活用されていません。その理由としては様々であり患者さんの認識不足・医療関係者の連携不足、薬剤師自体が積極性にかけるなどがあります。

### 【症例】

ポスター展示ではPEG及び癌末期ターミナルの事例についての2例を掲載いたしました。しかし、今後の課題も多く残されております。

### 【考察】

在宅医療は多くの在宅スタッフに支えられます。医療および介護スタッフの連携を密にとり、今後希望する患者さんに、在宅での治療・生活をよりよいものになりたいと思います。また、東広島薬剤師会としても多くの薬剤師が在宅に関わりが持てるように情報交換や研修を行いたいと思います。

## ポ・4 歯科パネルテーマ（咀嚼、審美）

賀茂・東広島歯科医師会

○富田洋道、藤井春男、山縣隆宏、佐藤美穂子、野々山大介

歯科口腔領域における機能には、咀嚼及び審美が考えられます。また、咀嚼、審美性を正常に機能させる最大の要素としては、歯が存在しなければなりません。歯が在ることによって食物を美味しく、楽しく咀嚼でき、正しい発音をし、外貌も美しいのです。

加齢により歯を多数喪失し、これを放置しますと、まずは噛めないで日々の食事が楽しくなくなり、発音も不明瞭で、容貌も低下し、生活の質の低下につながると言っても過言ではありません。

また、歯は在るだけでは正しく噛めません。前歯、犬歯、小臼歯、大臼歯と正常に並び、しかも上下顎の歯列が正しい位置で噛み合っていることが条件となります。

そこで、このたびのパネルにおいては、歯を失ったときの回復法を三方法、特にインプラント植立法による歯牙欠損回復法を提示し、加えて、不良な歯並びを美しく回復できる状況につき、写真、イラストで提示いたしました。

## ポ・5 転倒予防教室の取り組み

東広島市保健センター

○福重 藍

転倒による骨折は寝たきりになる要因の上位にあり、市民の「健康寿命の延伸」「健康増進」を目的に各保健事業を行っています。転倒骨折を予防し寝たきりを防ぐために、8回コースの「転倒予防教室」を市内の5会場で開催しました。開始の前後で、筋力、バランス力、歩行能力、柔軟性10項目について測定し結果を確認することも行いました。教室での体操を家庭で継続出来ること、食事、住宅環境の改善などの情報を提供し、終了後に自主的なグループとして仲間づくり、運動の継続に向けた支援を行った経過を報告します。

## ポ・6 「お薬手帳」の利用について—当薬局における患者様の意識調査

東広島薬剤師会 よつば薬局

○川崎一仁、樋口真由美

近年、薬物療法の複雑かつ高度化により、患者自身も健康情報や薬剤情報の管理を求められるようになってきました。そこで、「お薬手帳」（以下「手帳」）および「薬剤情報資料（以下「薬情」）に対する当薬局での患者様の意識調査を行いました。

「手帳」を必要とする方が約80%、「薬情」を必要とする方が約60%、どちらもいない方が約7%でありました。「手帳」は、「一冊をどこでも使える」、「薬の重複や相互作用を防ぐために必要なものである」ということを、認識していない方が少なくありませんでした。

当地区で「手帳」を持っている方は、他の地区に比較して多い様ですが、これは、当地区医師会、歯科医師会および薬剤師会が、その配布普及に力を入れたためであると思われます。しかし、調査の結果から、患者様に対する「手帳」の趣旨の説明が十分でないと思われました。

我々薬剤師は、「手帳」の趣旨をさらに認識していただく努力をすべきであると考えます。



## ポ・7「東広島市介護保険事業報告」—介護の視点から見えてきた疾病状況

東広島市福祉部高齢介護課

2000年4月、介護の社会化を目的として社会保障方式でスタートした介護保険制度。本市では、制度の根幹を担う要介護認定を賀茂郡5町と共同で行ない、また、事業運営に医師会を始め各関係機関の積極的なご支援・ご協力をいただいたお陰で、おおむね順調に今日を迎えています。しかし、制度施行後5年を経過する中で、介護保険制度上の問題や、痴呆高齢者の診断・治療・ケアの確立及び高齢者虐待など、高齢者を取り巻く様々な社会問題につきあたる場面が増えています。国においても「2015年の高齢者介護」～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～の中で抜本的な提言をしていますが、本市においても保健・医療・福祉のより一層有機的な連携が必要であると痛感しています。

今回、記念医学会（公開）の場をお借りし、介護保険施行後4年間の実施報告並びに、介護を要する疾病状況の一端を報告し、これを21世紀の高齢社会を市民一人ひとりが主体的に生きていくための体制検討の契機としていきたいと考えています。

## ポ・8 介護予防と自立支援に向けて在宅でのパワーリハビリの取り組み

賀茂台地訪問看護ステーション パワーリハビリグループ

○水本幸恵、吉川由美子、古川なるみ、秀島栄子、末国春香、真鍋紀子、藤沢五月、小野由三子、原田雅美、湯浅時栄、岡部正道、寺口智子

### 【はじめに】

身近にあるゴム紐やペットボトル等を使い、在宅でパワーリハを実施し、生活圏の拡大、ADLの向上を図る事ができた事例を報告する。

### 【研究方法】

利用者10名、1クール3ヶ月、PT機能評価後、リハビリメニューを作成し週2回、30分程度実施した。一ヶ月毎PTのリハビリ評価にて負荷運動の可否を検討し継続する。

### 【結果】

3事例につき以下の効果を認めた。

事例1 ベッド上で食事をしていたが、食堂やトイレ歩行が可能になった。 外に出たい' という目標が持てた。

事例2 自分に出来る事を考える様になり、米寿の祝いに温泉に行く目標が持てた。

事例3 体操の時好きなBGMをかけ、拒否していたデイサービスに、参加する様になった。

### 【考察】

行動・思考に変化が現れADLの向上、寝たきり・廃用性症候群の予防と、QOL向上に効果があった。また住み慣れた家はパワーリハの効果を高めた。

### 【おわりに】

高齢者が住みなれた家で生涯を通して生き生きと暮らす為、在宅パワーリハの実践を行っていきたい。

## ポ-9 東広島地区医師会臨床検査センターの業務

東広島地区医師会 臨床検査センター

○三戸敏恵、兼山加代子、森長比登美、平崎なおみ

医師会臨床検査センターでは、地域の医院・病院から様々な検査依頼を受け、検体回収→検査実施→結果の報告といった流れで業務を行っています。検査センターに回収された検体にその日の受付番号を付けます。そして患者さんの氏名・カルテ番号・生年月日・病院名・検査項目をパソコンに入力して受付業務が完了します。その後、検体の種類や検査項目によって、それぞれの測定機器で検査を行ったり、特殊検査・細菌検査などは他の検査施設に委託します。

短時間で結果の出る検査から日数の掛かる検査まで様々な検査があります。

最も注意して頂きたいことは、採血方法や時間（食事の有無）など、検査結果に影響を及ぼす因子があるということです。乳び・溶血が影響する検査、日内変動のある検査、食事・飲酒などで影響のある検査があります。

正確な検査結果が出せるように検査を依頼する側も受ける側も細心の注意をはらわなければなりません。

## ポ-10『痴呆に関する基本情報』の作成と活用の取り組みについて

賀茂台地訪問看護ステーション 痴呆ケアグループ

○宮武洋子、川本雪江、佐藤彩誉子、大石淑子、大多和頼子、小早川美智子、下潮さとみ、宮本紀美代、竹田明美、沖土居智子、湯浅時栄

### 【はじめに】

高齢化により増加している痴呆症のある人の治療・ケアが重要視されている。私達は、医師・行政・多職種と協働して、地域住民と共に在宅における痴呆ケアを実践し普及することを目的に痴呆ケアグループを設置し、共通認識をもつ為の、『痴呆に関する基本情報』を作成した。

### 【対象と方法】

（対象）診断名が痴呆、又は診断はないが痴呆症状のある人を対象とした。

（方法）担当看護師がチェック・記述方式で記入した。

### 【結果】

痴呆症の人が全体の約半数を示した。医師から多くの示唆を得、又、ケアマネやヘルパー等の関係者からも意見をいただいた。

### 【考察】

基本情報を記載していく中で、必要な情報は何か、客観的にみた正確な情報でなければならない。他職種で共通認識を持ち、早期発見・早期治療をはじめ適切なケアをする為に、内容の検討を重ねたい。

### コ-1「東広島市における肝炎ウイルス検診の現状と問題点」

東広島肝疾患懇話会

○藤原雅親、池本吉博、三浦敏夫、川口 稔、川本広夫、楠部 滋、金基哲

#### 【目的】

東広島市における2年間の肝炎ウイルス検診の現状を調査し、残り3年の検診実施に際しての問題点を探る。

#### 【結果】

HBs抗原陽性者は2%。HCV抗体陽性者は3.5%。HCVキャリア（保菌者）は1.5%で、男性に多く年齢が高いほど多い。キャリアの60%に肝機能異常が認められた。

#### 【問題点】

検診の受診者が少ない。特に男性。HCVキャリアの精検受診率が低い。HCVキャリアの適切なフォローアップが出来ていない。来年度から市が合併するためキャリアが急増する可能性がある。

#### 【対策】

一層の住民への啓蒙、キャリアに対する面接方法、行政と医師会の密な連携などが必要と考えられた。

### コ-2 当院でのmultidetector-rowCTによる、HCV抗体陽性者及びHBs抗原陽性者のfollow-upの有用性

井野口病院

○松本明子、宗盛 真、坂井賢哉、山形東吾、平田雄三、児玉真也、山中啓司、井野口千秋

#### 【緒言】

近年普及しつつあるmultidetector-rowCTでは、全肝を1回の息止めで撮影することができるようになった。

これにより、従来のCTでは診断が困難であった微小肝癌の検出が可能になった。今回我々は肝炎ウイルスマーカー陽性者multidetector-rowCTによりfollow-upしたのでその結果を報告する。

#### 【対象】

2003年5月～2004年7月までに当院でmultidetector-rowCTによりfollow-upした、HCV抗体陽性者及びHBs抗原陽性者。

#### 【内訳】

HBs抗原陽性者は男性13例、女性3例の計16例。HCV抗体陽性者は男性52例、女性37例の計89例（計105例）であり、CT施行回数150回であった。

#### 【方法】

原則としてスライス厚3mm-5mm、造影剤静注速度3-5ml/secで肝臓を25・35・60・120秒後に撮影。撮影頻度は原則として半年間に1度とした。

#### 【結果】

原発性肝癌はHBs抗原陽性の男性3人・5結節、HCV抗体陽性者の男性7人・9結節、女性4人・8結節の14人で（計15人・22結節）、全体の14%に認めた。また、そのうち、9人・16結節（73%）は2cm以下であった。

#### 【結語】

multidetector-rowCTは小肝癌の結節描出に有用であり、肝炎ウイルス陽性者のfollow-upに有用である。

## コ-3耳鼻科学校検診の開始3年間の成果と課題

東広島地区耳鼻咽喉科医会

○竹内 實（竹内耳鼻咽喉科）、渡部雄二（わたなべ耳鼻咽喉科）、藤原裕美（むぎ耳鼻咽喉科）、  
田代 亨（本永病院耳鼻咽喉科）

耳鼻科学校健診は学校保健法で義務づけられ、全国に普及したが、東広島市の小中学校ではこの30年間、行われていなかった。放置できなく、3年前から耳鼻科医師4名で耳鼻科健診を始めた。幼稚園2園、小学校21校、中学校8校の合計31校、生徒数約12,500名。

全員を法定期限の6月までに健診するのは不可能なため、各学校の1年生約3,000名に限定して健診した。有所見者は21.3%だった。年齢別では年少者ほど多く、幼稚園児34.8%、小学1年生25.1%、中学1年生15.5%の順だった。疾患別では多い順に耳垢栓塞9.4%、アレルギー性鼻炎9.3%、慢性副鼻腔炎3.8%、滲出性慢性中耳炎0.8%の順だった。保護者に報告し、事後措置率は50.8%だった。課題は限定学年の解消、不足医師の応援と応分の報酬、健診期間の拡大と精度向上、事後措置率の向上と健康教育。子供の耳鼻科疾患は多く、耳鼻科医の視診による発見が一番であり、学校での定期健診の必要性を痛感した。

## コ-4東広島地区における痴呆ケアネットワークの現状と展望

東広島地区医師会 地域ケア総合委員会

○楠部 滋、藤原義剛、佐々木正博、稲葉 裕、勝山春作、新開洋一、藤本洋治、古玉 健、山崎正教

痴呆高齢者の医療・介護においては、多職種協働による地域ケアネットワークを構築して、高齢者の尊厳を保つケアを実現する必要がある。

東広島地区医師会では会員の医師による痴呆相談窓口を作って、痴呆の早期発見早期治療に取り組んでいる。この活動には36医療機関が参加し、平成16年8月までに3回の研修を終了して、痴呆患者および家族からの相談に対応している。また訪問看護ステーションおよびヘルパーステーションの活動を通じて在宅痴呆患者の実態を把握し、更に、居宅介護支援事業所によって、痴呆患者や家族に役立つケアプランの実現に努めている。

今後は、医療・保健・福祉・介護家族など多職種の参加による合同研修を計画するとともに、一方では個々の痴呆患者について多職種参加によるケアカンファレンスを充実させることによって、地域ケアネットワークを構築して行く計画である。

## コ-5 当科で行っている日帰り・短期入院手術

独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター 耳鼻咽喉科

○宮脇浩紀、高木宗男

近年我が国でも、欧米と同様に高騰する医療費の抑制のため日帰り手術が積極的に取り入れられる方向にある。耳鼻咽喉科には日帰りあるいは短期入院手術の対象となる疾患が多い。当科でも2001年12月の耳鼻咽喉科開設以来、約2年半の間に手術症例も増加し、日帰り、短期入院の手術症例も増えている。

対象症例は先天性耳瘻孔、耳周囲粉瘤、滲出性中耳炎、慢性中耳炎、副鼻腔のう胞、アレルギー性鼻炎、鼻骨骨折、頬骨弓骨折、舌腫瘍、いびき、頬部リンパ節、唾石症などである。若干の症例を提示し、当科で行っている日帰り・短期入院手術について報告する。

## コ-6 当院におけるマンモトーム（乳房生検装置）を用いた診断治療について

独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター 外科

○貞本誠治、高橋忠照、豊田和広、池田昌博、中谷玉樹、木村まり、高倉有二、栗本典昭、沖政盛治

近年わが国の乳癌罹患率は急激に増加し、現在では女性癌の1位となっている。乳癌早期発見のためには、触知不能乳腺病変の診断が非常に重要である。

マンモトームはそのような病変の組織標本をピンポイントで採取可能である。傷は約4mmと小さく縫合不要で、侵襲少なく施行することが可能である。

ステレオマンモグラフィーガイド（広島県では当院にだけ導入されている）あるいはエコーガイドに組織を回収する。また良性小腫瘍はエコーガイドに摘出も可能である。

当院における現状を報告する。

## コ-7 十二指腸潰瘍穿孔に対する腹腔鏡下穿孔部閉鎖、大網被覆術の3例

独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター 外科

○高橋忠照、貞本誠治、豊田和広、池田昌博、中谷玉樹、木村まり、高倉有二、栗本典昭、沖政盛治

十二指腸潰瘍の穿孔による汎発性腹膜炎は急性腹症として緊急手術の対象となることが多い。

我々は、十二指腸潰瘍の穿孔を続けて3例経験し、何れも腹腔鏡下に十二指腸潰瘍穿孔部を縫合、体内結紮し閉鎖、大網被覆術を行い良好な臨床経過であった。

その具体的な手技に付きビデオを供覧し症例報告する。

## コ-8 人工関節・最近の進歩

県立リハビリテーションセンター

○黒瀬靖郎、宮下裕行、藤井二郎、岡 伸一

高齢化社会がかつて経験のないスピードで到来する。2010年代には人口の25%が高齢者（65歳以上）となる。整形外科では21世紀初頭の10年間を「骨・関節の10年」としてキャンペーンを張り到来する高齢化社会に対応しようとしている。本日は高齢者医療の中で重要な位置を占める人工関節手術（最近の進歩）につき述べる。

県立リハビリテーションセンターに於いては過去人工膝関節1000件、人工股関節680件を行った。人工膝関節においてはモジュラー型コンポーネントが提供され、いかなる破壊・変形に対しても対応が可能となった。アシスタントロボット、ナビゲーションシステム、あるいは手術用ロボットまで導入されようとしている。術後のケアにも工夫がなされよく曲がる人工膝関節が提供できるようになった。

人工股関節においては10倍も強化されたポリエチレンの進歩が大きい。耐久性が格段に進歩し新しいデザインの人工関節が提供されるようになった。

<<協 賛>>

エーザイ株式会社

株式会社オムエル

株式会社シノテスト広島支店

武田薬品工業株式会社

田辺製薬株式会社

株式会社ツムラ

東和薬品株式会社

日本シェーリング株式会社

バイエル薬品株式会社

万有製薬株式会社広島支店

三菱ウェルファーマ株式会社

山之内製薬株式会社広島支店

平成16年10月13日現在